

令和2（2020）年度 開講科目の授業題目・内容と担当教員

目 次

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
20001	外国語仏教学論著講読	落合 俊典 教授	3
20002	外国語仏教学論著講読	斉藤 明 教授	4
20003	外国語仏教学論著講読	池 麗梅 准教授	5
20004	外国語仏教学論著講読	デアヌ フロリン 教授	6
20005	外国語仏教学論著講読	幅田 裕美 教授	7
20006	外国語仏教学論著講読	藤井 教公 教授	8
20007	論文指導	落合 俊典 教授	9
20008	論文指導	斉藤 明 教授	10
20009	論文指導	池 麗梅 准教授	10
20010	論文指導	デアヌ フロリン 教授	11
20011	論文指導	幅田 裕美 教授	11
20012	論文指導	藤井 教公 教授	12
20013	仏教文献学方法論	落合 俊典 教授	13
20014	仏教文化学方法論	宮本 久義 講師	14
20015	南・東南アジア仏教文献学研究	デアヌ フロリン 教授	15
20016	南・東南アジア仏教文献学演習	デアヌ フロリン 教授	16
20017	南・東南アジア仏教文献学演習	Anne MacDonald 客員教授	17
20018	内陸アジア仏教文献学研究	斉藤 明 教授	18
20019	内陸アジア仏教文献学研究	幅田 裕美 教授	19
20020	内陸アジア仏教文献学演習	斉藤 明 教授	20
20021	内陸アジア仏教文献学演習	幅田 裕美 教授	21
20022	東アジア仏教文献学研究	落合 俊典 教授	21
20023	東アジア仏教文献学研究	池 麗梅 准教授	22
20024	東アジア仏教文献学研究	藤井 教公 教授	23
20025	東アジア仏教文献学演習	落合 俊典 教授	24
20026	東アジア仏教文献学演習	池 麗梅 准教授	25

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
20027	東アジア仏教文献学演習	藤井 教公 教授	26
20028	近現代仏教研究 (仏教学と生命倫理)	土山 泰弘 講師	27
20029	近現代仏教研究 (仏教学と環境問題)	土山 泰弘 講師	28
20030	宗教哲学	山田 利明 講師	29
20101	仏教学特殊研究 (夏学期)	藤井 教公 教授 (代表)	30
20102	仏教学特殊研究 (冬学期)	斉藤 明 教授 (代表)	31
20103	日本語 I	宮田 聖子 講師	32
20104	日本語 II	宮田 聖子 講師	33
20105	古文・漢文読解 I	田戸 大智 講師	35
20106	古文・漢文読解 II	小島 裕子 講師	36
20107	サンスクリット語	宮本 久義 講師	38
20108	古典チベット語	斉藤 明 教授	39

科目番号	20001
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	木曜日3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	湯用形著『漢魏両晋南北朝仏教史』第15章
授業の目的・概要	<p>前々年度・前年度に引き続き、近代中国仏教史学の泰斗湯用形の『漢魏両晋南北朝仏教史』を取り上げる。</p> <p>湯用形は、欧米の批判的かつ文献学的な方法論を取り入れていることからその原典博捜は徹底している。本書を読解していくことによって原典の位置づけとその思想的意味が十分に理解されるようにしていく。</p>
到達目標	<p>中国仏教史研究の代表的な著述である本書の講読を通じて文献資料の取り扱いに習熟することが到達目標である。湯用形の著述は南北朝時代までであるので隋唐五代宋元明清は範疇外であるが、随時説明していくので中国仏教史研究の基本的文献の全体的把握は可能である。</p>
授業計画	<p>担当箇所を受講者が順次受け持ち、読解に取り組む。基本的な読解の方法は、講義室に備え付けられた叢書・全集等の研究参考書を実際に用いることで速やかに身に付くようになる。</p> <p>受講者は引用原典の比定にあたって原文を直接調べるのが肝要である。CBETAやSAT等のテキストデータだけに頼って読解することは慎まなければならない。</p> <p>夏学期：①湯用形の学問。②中国仏教史研究の問題点。③湯用形と塚本善隆。④中国仏教史の基礎文献。⑤同つづき。⑥『漢魏両晋南北朝仏教史』概説。⑦同書第15章輪読（担当者決定）。⑧輪読つづき。⑨輪読つづき。⑩輪読つづき。⑪輪読つづき。⑫輪読つづき。⑬輪読つづき。⑭輪読つづき。⑮レポート試験。</p> <p>冬学期：①輪読つづき。②輪読つづき。③輪読つづき。④輪読つづき。⑤輪読つづき。⑥輪読つづき。⑦輪読つづき。⑧輪読つづき。⑨輪読つづき。⑩輪読つづき。⑪輪読つづき。⑫輪読つづき。⑬輪読つづき。⑭輪読つづき。⑮レポート試験。</p>
授業の方法	<p>担当箇所を受講者が順次受け持ち、読解に取り組む。基本的な読解の方法は、講義室に備え付けられた叢書・全集等の研究参考書を実際に用いることで速やかに身に付くようになる。</p> <p>受講者は引用原典の比定にあたって原文を直接調べるのが肝要である。CBETAやSAT等のテキストデータだけに頼って読解することは慎まなければならない。</p>
成績評価方法	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
テキスト	湯用形著『漢魏両晋南北朝仏教史』
参考文献	鎌田茂雄著『中国仏教史』第1巻～第6巻（東大出版会） 『定本中国仏教史』第1巻～第2巻（柏書房）
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	講義・演習に関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20002
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	金曜日5時限目
担当教員氏名	斉藤 明 教授
授業題目	Paul Williams, <i>Mahāyāna Buddhism</i> 講読
授業の目的・概要	本書は欧米における代表的は大乗仏教思想の入門書である。全体を智慧と慈悲の観点から10章に分け、大乗仏教の代表的な教理を分かりやすく解説する点に特色をもつ。本講義では、とくに仏教術語の現代語訳(英訳、日本語訳)をめぐる諸問題を分析・考察しながら授業を進める。本年は昨年度に引き続き、「瑜伽行派」以降の後半を、随時、解説とコメントを加えながら読む。
到達目標	仏教の教理と歴史の概要を英文で読み、考え、的確に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 1-2 Introduction [Part I Wisdom] 3-6 Yogācāra 7-10 The Tathāgatagarbha (Buddha-essence/ Buddha-nature) 11-15 Huayan – the Flower Garland tradition 冬学期 1-2 Review and Introduction [Part II Compassion] 3-5 The <i>Saddharmapuṇḍarīka (Lotus) Sūtra</i> and its influences 6-7 On the bodies of the Buddha 8-10 The path of the Bodhisattva 11-15 Trust, self-abandonment and devotion: the cults of Buddhas and Bodhisattvas
授業の方法	講義と演習を交えながら講読を行う。必要な関連資料は、随時配布する。参考文献ならびに関連研究は授業の中で紹介する。授業は英語を基本とするが、必要に応じて日本語でも対応する。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価。
テキスト	Paul Williams, <i>Mahāyāna Buddhism: The Doctrinal Foundations</i> , 2 nd edition, London and New York: Routledge, 2008. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	授業の中で紹介する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	予習には3時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20003
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	金曜日2時限目
担当教員氏名	池 麗梅 准教授
授業題目	陳垣著『中国仏教史籍概論』講読
授業の目的・概要	本書は中国六朝以降の歴史を研究する上で必要不可欠とされる仏教史籍を分類・概観したものである。本書の講読によって、中国史研究の資料としての仏教史籍の重要性を理解し、更に仏教史籍の梗概を通じて中国仏教史全体を俯瞰することを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって、受講者が中国仏教史の基礎文献を体系的に理解し、個々の仏教史籍に対して独自の視点と問題意識を持って調査・研究を深めていけるようになることが目標である。
授業計画	夏学期 第1回 概説 第2-6回 『出三蔵記集』 第7-10回 『開元釈教録』 第11-15回 『歴代三宝記』 冬学期 第1回 概説 第2-6回 『歴代三宝記』 第7-15回 『高僧伝』
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻訳するだけではなく、その記述内容を分析して問題点を指摘した上で、関連研究の現状ならびに今後の展望についての受講者自身の考えも踏まえて発表してもらいたい。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）またはレポートにて通年で評価。
テキスト	陳垣著『中国仏教史籍概論』、北京：中華書局、1962年。
参考文献	陳垣著・西脇常記&村田みお訳『中国仏教史籍概論』、東京：知泉書館、2014年。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	積極的な授業参加が望まれる。担当者は発表原稿を人数分用意すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20004
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	月曜日4時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	Abhidharma Philosophy and Terminology
授業の目的・概要	This year we shall read fragments from the <i>Abhidharmakośabhāṣya</i> , Vasubandhu's celebrated treatise which gives a critical presentation of the Sarvāstivādin doctrinal system. The focus will be on the <i>Mārgapudgalanirdeśa</i> , the chapter dedicated to the spiritual path. After an overview of the philological, historical, and philosophical background of the text, we shall read passages in Sanskrit and Chinese and will translate it into English.
到達目標	-- Gain knowledge of the doctrinal foundations of Indian Buddhism and its basic terminology. -- Familiarise oneself with academic English for Buddhist studies. -- Improve English language skills (focusing on reading but also paying attention to listening, speaking, and writing abilities). -- Improve reading and translation skills from Buddhist canonical languages.
授業計画	Summer Semester 夏学期 (1) Abhidharma literature (2)-(3) Historical background of the <i>Abhidharmakośabhāṣya</i> (4) Vasubandhu's philosophical position in the <i>Abhidharmakośabhāṣya</i> (5) Primary and secondary sources (6)-(9) Readings: The basis of the path of spiritual cultivation (10)-(13) Readings: Meditation on the impure (14)-(15) Students' presentations Winter Semester 冬学期 (1)-(4) Readings: Mindfulness of breathing (5)-(9) Readings: The four applications of mindfulness (10)-(13) The path of vision, the path of cultivation, and Arhatship (14)-(15) Students' presentations
授業の方法	In the first part of the summer semester, from classes (1) to (5), I shall give lectures on the subjects mentioned above. In the second part, students are expected to prepare in advance the materials scheduled to read.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	P. Pradhan ed. <i>Abhidharmakośabhāṣya of Vasubandhu</i> . 世親《阿毘達磨俱舍論》玄奘譯 婆藪盤豆《阿毘達磨俱舍釋論》真諦譯 (Handouts containing relevant materials will be distributed in class.)
参考文献	Louis de la Vallée Poussin, traduction et annotation. <i>L'Abhidharmakośa de Vasubandhu</i> . 6 vols. Bruxelles: Institut Belge des Hautes Études Chinoises. [1923-1931] 1971. Louis de la Vallée Poussin, French translation; Gelong Lodrö Sangpo, annotated English translation. <i>Abhidharmakośa-Bhāṣya of Vasubandhu</i> . 4 vols. Delhi: Motilal Banarsidass Publishers, 2012. Sakurabe Hajime 櫻部建 and Odani Nobuchiyo 小谷信千代. <i>Kusha ron no genten kaimei: Genjō-bon 俱舍論の原典解明【賢聖品】</i> . Kyoto: Hōzōkan, 1999. (An extensive bibliography will be provided in the class.)
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習：2時間 復習：2時間
履修上の注意	Participants must have basic knowledge of English and at least one canonical language.
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20005
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	火曜日3時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	Ernst Waldschmidt, Das Mahāparinirvāṇasūtra 講読
授業の目的・概要	本書はドイツ仏教文献学の代表的なテキスト研究書である。本講義では、サンスクリット断片とパラレル文献との対照によって、断片からテキストを復元する方法を検証し、写本の写真を参照し、批判的テキストを研究する基礎を身につけることを目的とする。あわせて、涅槃經典類の対照比較研究を概観する。
到達目標	写本を解読し、テキストを校訂する方法論を的確に理解することを目標とし、あわせてドイツ語の研究書を使いこなせるようにすることを旨とする。
授業計画	夏学期 第1回 概説 第2-15回 校訂テキスト講読 冬学期 第1回 テキスト校訂理論概観 第2回 仏教混淆サンスクリット断片研究概観 第3回 中央アジア断片研究概観 第4回 涅槃經典類の比較研究概観 第5-14回 写本講読 第15回 まとめ
授業の方法	校訂テキスト講読は受講者全員が読解に取り組む。写本講読は断片写真を見ながら読解能力を身に付けるようにする。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	Ernst Waldschmidt: Das Mahāparinirvāṇasūtra. Text in Sanskrit und Tibetisch, verglichen mit dem Pāli nebst einer Übersetzung der chinesischen Entsprechung im Vinaya der Mūlasarvāstivādins. Berlin: Akademie-Verlag, 1950-51.
参考文献	Ernst Waldschmidt: Die Überlieferung vom Lebensende des Buddha. Eine vergleichende Analyse des Mahāparinirvāṇasūtra und seiner Textentsprechungen. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1944-48. その他は授業の中で紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	授業に積極的に参加し、十分な学術知識の習得に努めることが望まれる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20006
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	火曜日2時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	Kazuo Kasahara ed., <i>A History of Japanese Religion</i> 講読
授業の目的・概要	本書は日本の宗教について、その歴史から教理の概要までを概説した書である。大部ではあるが文章は平明で内容的にも信頼が置ける。本書を講読することによって日本仏教形成の過程と、その発展、さらにその基盤としての日本宗教思想全体についての理解を深めることを目的とする。
到達目標	テキストは日本の宗教全般について、とりわけ日本仏教史の概説書としては内容的に詳細な記述がなされているので、本書を講読することによって新知見を増し、さらにそこから発展して受講者自身がテキストを素材として問題意識を持ってテーマを見つけ、文献資料の調査、研究にまで進むことを目標とする。
授業計画	第7章 The Jōdo Shin Sect から読み始める。 前期第1～第15週までに第7章の The Jōdo Shin Sect in the Kamakura Period The Jōdo Shin Sect in the in the Muromachi Period の二節を講読。 後期第16～第30週の間第8章の The Ji Sect の The Ji Sect in the Kamakura Period The Ji Sect in the Muromachi Period を講読し、時間的余裕があれば、更に第9章 The Zen Sect の第一節 The Rinza Sect に進む。
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて講読する。単にテキストを読んで訳すだけでは意味がないので、担当者はテキストの記述内容自体について、あるいは、それに関連する事項、またその背後にある問題について、自身が考え、調べたものを発表してもらいたい。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）にて通年で評価。
テキスト	Kazuo Kasahara ed., <i>A History of Japanese Religion</i> (Tokyo, 2001) 教場でコピーを配布する。
参考文献	教場でテキストの内容ごとにその都度指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間半程度、復習には1時間半程度の時間をかけること。
履修上の注意	出席励行のこと。担当者は発表原稿を人数分用意する。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20007
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	火曜日3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆におけるテーマ設定から内容の指導、体裁、参考文献の取り扱い方、提出までに必要な事項等を教授する。
到達目標	仏教文献学の方法を習得すること。仏教文献は様々な言語で書かれていることから基本的言語の習得の上に研究テーマを設定し、論文を書けるようになることが目標である。
授業計画	最初に研究テーマの設定に関して討論を重ね、具体案作成へ向けて、いくつかのレポートを作成していく。次いで受講生は、先行研究論文を読破し、先行研究の問題点についてレポートの提出が求められる。このレポートを基に新たな観点や新知見の可能性について論議検討し、研究テーマの絞り込みに努める。夏学期：①研究論文の書き方。②研究の方法論。③研究資料の探索方法。④外国語文献の探索方法。⑤研究テーマの選定。⑥複数の研究テーマ。⑦研究テーマのデッサン。⑧研究チャートの作成。⑨研究文献のフィールドワーク。⑩研究テーマ討論。⑪研究テーマ変更の方法。⑫研究会の案内。⑬学会の案内。⑭発表の方法。⑮発表。討論。冬学期：①発表と討論の方法。②討論の文句。③先行研究の徹底的解読。④外国語先行研究の解読方法。⑤当該研究者の見つけ方。⑥文字資料の扱い方。⑦活字本と刊本。⑧刊本と写本。⑨写本の読解方法。⑩写本の所在。⑪写本の探索方法。⑫写本に関する書誌学的知識。⑬文献学。⑭文献学の確立。⑮発表と討論
授業の方法	受講生の研究してきたレポートについて適宜問題点を指摘し、レベルアップを図る。また重要資料を図書館その他から取り寄せ、その解読を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
成績評価方法	平常点（論文指導への積極参加）にて通年評価
テキスト	研究テーマが定まり次第テキストや先行研究論文の集積の指導を行う。
参考文献	研究テーマ決定に従って参考文献を探索する。参考文献の探し方についても指導を行う。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20008
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	火曜日 4時限目
担当教員氏名	斉藤 明 教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆に際してのテーマの設定、研究に必要な資料や参考文献の収集、適切な研究方法などを指導する。
到達目標	学位論文に関する毎回の報告と指導を踏まえ、関連する学術論文の作成方法を学んだ上で、学位論文の完成を目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説（論文とは何か：目的、方法等） 2 論文のルール 3 学位論文のテーマ設定をめぐって 4-15 報告と議論、および指導 冬学期 1 進行状況の報告と展望 2-15 報告と議論、および指導
授業の方法	学生が用意してきたレポートや研究の部分的な成果をもとに、コメントと質疑応答、ならびに討論を交えながら授業を進める。
成績評価方法	平常点により、通年で評価。
テキスト	必要に応じて授業の中で指示する。
参考文献	授業の中で紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には5時間、復習には1時間の時間をかけること。
履修上の注意	論文の完成に向けた地道な取り組みが期待される。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20009
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	木曜日 5時限目
担当教員氏名	池 麗梅 准教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に向けて、研究テーマ、問題の設定、論文の構成、研究の方法、必要な文献、原典の翻訳・解釈などにわたって、個別に指導する。
到達目標	合理的な研究計画に従って、研究の方法を習得しながら、学位論文の完成を目指す。
授業計画	研究テーマによって、個別に協議検討した上で決定する。
授業の方法	論文執筆者が準備段階ごとに提示する研究成果（問題意識も含めて）をもとに、コメント、討論、または助言などを行う。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要なテキストを用いる。
参考文献	論文執筆者の研究テーマに関連する文献を網羅的に点検し、必要に応じて助言を行う。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること。
履修上の注意	合理的な研究計画の立案と、研究遂行に向けた地道な取り組みが望まれる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20010
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	金曜日5時限目 水曜日5時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業の目的・概要	PhD tutorials are designed to help doctoral students to prepare and write their theses. Apart from reading and analysing primary and secondary sources, students are required to submit papers reflecting the progress of their work three times per semester. We shall also explore together specific problems and methodological strategies.
到達目標	Each semester must be a clear step (measurable in number of pages) in the process of writing the MA or PhD thesis.
授業計画	To be decided with each individual student
授業の方法	We shall combine presentations done by the students with critical analysis and reading together difficult passages.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	To be decided with each particular student
参考文献	To be decided with each particular student
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習：2時間 復習：2時間
履修上の注意	An MA thesis should be a solid study/edition/translation, clearly argued and showing familiarity with the basics of the research topic. The PhD thesis must be an original contribution to a particular subject in Buddhist studies based upon meticulous philological and historical work.
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20011
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	木曜日4時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に必要な方法を習得することを目的とする。テーマの設定、研究史の把握、必要な文献の選択、文献解読の方法、写本読解の方法、批判テキストの分析方法などを指導する。
到達目標	仏教研究に必要な基礎能力を身につけ、学位論文を完成することを目標とする。
授業計画	受講生の学問的関心と研究テーマにそって、個別に相談し、決定する。
授業の方法	受講生の関心と研究テーマについて議論し、その研究テーマにふさわしい文献を選択する。研究テーマと文献に関する研究史を調査し、論文の内容と構成を決定する。論文の進捗段階に合わせて、論文原稿を議論する。
成績評価方法	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
テキスト	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要なテキストを用いる。
参考文献	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要な参考文献を用いる。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	積極的な問題意識を持って、論文の完成に向けて地道に取り組むことが望まれる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20012
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	水曜日2時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業の目的・概要	学位論文執筆のためのテーマの選択から、執筆完成に至るまでの全過程における事柄について教授する。論文テーマの選定、先行業績の調査、文献資料の渉猟と蒐集の方法、選定資料の読み込み、執筆内容の吟味などについて、受講者のそれぞれのテーマ、それぞれの段階に応じて指示し、論文の完成を目指す。
到達目標	受講者それぞれの修士論文、博士論文の完成を目指す。
授業計画	第1～5講 テーマの選択・設定に関する指導 第6～9講 テーマに関わる先行業績文献資料の読み込み 第10講以降 執筆内容の吟味と指導
授業の方法	授業日、授業時間はあらかじめ設定されているものの、受講者との話し合いにより、双方の都合で決定する。そのためあらかじめの打ち合わせが必要である。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）にて通年で評価
テキスト	受講者各自が論文作成のために取り上げた文献資料、及びテーマに応じた必須文献資料を用いる。
参考文献	執筆論文の内容に応じて、その都度指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間以上、復習にも2時間程度の時間をかけること
履修上の注意	毎回、指導時間をあらかじめ担当教員と打ち合わせる事。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20013
科目名・単位数	仏教文献学方法論 4単位
時限	水曜日2時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	東アジア仏教における経典目録・章疏目録の研究
授業の目的・概要	<p>中国で編纂された経典目録の嚆矢は釈道安の『綜理衆経目録』であるが、常盤大定の復元本を検証し、歴代の経録を通観する。その際には『開元録』巻十の「総括群経録」を援用する。</p> <p>日本に伝来した『大周録』や『開元録』は現行本と異なる箇所が一部見られるがその因由について考察する。</p> <p>また、円照撰『貞元録』は唐王朝から排斥され消滅したが、高麗国へ伝来した高麗本『貞元録』と空海により日本へ請来された古本『貞元録』とは一部異なる。これらの因由と逸文についても考察する。</p>
到達目標	<p>『大正蔵』55巻に記載されている経録の取り扱いが漢文大蔵経研究にとって基本的資料であるが、これらを通観した解説書は少ない。</p> <p>本講では歴代経録の出発点の『綜理衆経目録』と、大蔵経の指針となった『開元録』について基本的概要の習得に努める。特に『開元録』はその後の大蔵経研究にとって重要な経録であるが、実は大きな問題点が含まれていることが近年明らかになってきた。それらの事例について把握できるよう展開していく。</p>
授業計画	<p>夏学期：①経録の歴史。②釈道安撰『綜理衆経目録』の復元。③続き。④～⑩『開元録』巻十「総括群経録」からの考察。⑪～⑮『開元録』の問題点。</p> <p>冬学期：①『貞元録』の現状とその問題点。②高麗本『貞元録』。③続き。④日本伝来本『貞元録』。⑤～⑩続き。⑪～⑮古本『貞元録』と原本『貞元録』。</p>
授業の方法	講義形式で授業を行う。受講者は事前に与えられた課題について準備してくることが求められる。
成績評価方法	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
テキスト	『大正蔵』55巻
参考文献	<p>塚本善隆著『塚本善隆著作集』全7巻（大東出版社）。</p> <p>常盤大定著『後漢より宋齊に至る訳経総録』（昭和13、昭和48）。</p> <p>宮崎健司著『日本古代の写経と社会』（塙書房、2006）。</p> <p>牧田諦亮監・落合俊典編『七寺古逸経典研究叢書』全6巻（大東出版社）。</p>
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	講義・演習に関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20014
科目名・単位数	仏教文化学方法論 4単位
時限	集中講義（夏・冬学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	宮本 久義 講師（元東洋大学 教授）
授業題目	道をめぐるインド文化論
授業の目的・概要	人はなぜ移動するのかという問題は、人間の歴史的・文化的営為を読み解くための重要なポイントであり、道はそのキーワードのひとつであると考えられる。道は、民族移動の道、交易の道、巡礼や求法の道、文化伝播の道、民族独立の道などさまざまな要素を持っている。いろいろな地図を見ながら、そこにあらわれるさまざまな歴史と文化の問題を一緒に考えていきたい。 積尊ブッダの求道と伝道の道や、法顕・玄奘・義浄など求法僧の辿った道を手始めに、スリランカやアフガニスタンへの仏教の伝播などを概説する。また、仏教の八大霊場と比較する意味で、ヒンドゥー教の聖地の分類やその特徴を考察しつつ、仏教とヒンドゥー教の複合的聖地であるカイラーサやヴァーラーナシーの現在の聖地信仰の実態にも触れる。さらに、イブン・バトゥータの『三大陸周遊記』やマルコ・ポーロの『東方見聞録』、鄭和の西洋下りの記録『瀛涯勝覧』などを資料として、イスラームやキリスト教とインドの地との関係にも触れる予定である。
到達目標	インドを中心とする南アジアを対象として道の文化史を考えると、そこにはその地域的特殊性ととも、全世界に共通する普遍性も浮かび上がってくるであろう。それらを理解し、地理・歴史と文化・思想が緊密に結びつく様相を分析・考察できるようになることを目標としたい。
授業計画	夏学期 第1回：南アジアのトポロジー 第2回：先史以来の道の動態・古代インドの道 第3回：ブッダの求道と伝道の道 第4回：仏教の八大霊場 第5回：『法顕伝』とその関連資料 第6回：法顕の求法の旅の目的とたどった道 第7回：『南海寄帰内法伝』とその関連資料 第8回：義浄の求法の旅の目的とたどった道 第9回：『大唐西域記』とその関連資料 第10回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(1) 第11回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(2) 第12回：『大唐西域記』における地名同定の問題点 第13回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(1) 第14回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(2) 第15回：日本における聖地巡礼 冬学期 第1回：ヒンドゥー教の宗教思想 第2回：ヒンドゥー教の聖地 第3回：プラーナ聖典における「マーハートミヤ」 第4回：ブッダガヤーとガヤー 第5回：ヴァーラーナシーとサールナート(1) 第6回：ヴァーラーナシーとサールナート(2) 第7回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(1) 第8回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(2) 第9回：中世インドを旅した人々 第10回：イスラームの来た道 第11回：イブン・バトゥータの『三大陸周遊記』 第12回：マルコ・ポーロの『東方見聞録』 第13回：キリスト教の来た道 第14回：フランシスコ・ザビエルの伝道 第15回：総括
授業の方法	こちらで用意した配布資料をもとに講義を進めていく。漢文やサンスクリットの原典を使用するときには、できるだけわかりやすく解説する。また、文化論という性質上、ビデオやDVDなどの映像資料も多用する予定である。
成績評価方法	平常点にて通年で評価。
テキスト	教場にて資料を配布する。
参考文献	小西正捷・宮本久義編『インド・道の文化誌』春秋社、1995年

	水谷真成訳『大唐西域記』平凡社、1972年 義浄撰、宮林昭彦・加藤栄司訳『南海寄帰内法伝』法蔵館、2004年 長沢和俊訳註『法顕伝・宋雲行紀』平凡社、1975年 馬歆著、小川博訳注『瀛涯勝覧』吉川弘文館、1969年 その他、講義中に適宜教示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習・復習ともに120分程度の時間をかけてほしい。
履修上の注意	講義中は常にインドの地図を参照し、インドの地理と文化が徹底的に頭に入るように努力していただきたい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20015
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学研究 4単位
時限	月曜日3時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	<i>The Laṅkāvatārasūtra</i>
授業の目的・概要	This year we will focus on the <i>Laṅkāvatārasūtra</i> , a late Mahāyāna scripture which has left a major imprint on the development of Buddhist thought and spirituality all over Asia. Philosophically, it represents a fusion between the Yogācāra-Vijñānavāda system and tenets typically associated with the Tathāgatagarbha current. After an overview of the philological, historical, and philosophical background of the text, we shall read and translate passages from the Sanskrit original and compare it to the Tibetan and Chinese versions as well as to modern renderings into Japanese, English, etc.
到達目標	-- Understand the peculiarities and development of the <i>Laṅkāvatārasūtra</i> . -- Gain detailed knowledge of the basic tenets and their historical background. -- Hone philological skills (editing, translating, annotating) necessary to work with primary sources. -- Improve knowledge of Sanskrit, Classical Tibetan, Classical Chinese, and Classical Japanese.
授業計画	Summer Semester 夏学期 (1)-(2) Primary sources: Sanskrit, Tibetan, Chinese, etc. (3) Modern translations and secondary literature (4) Formation and historical background (5) The place of the <i>Laṅkāvatārasūtra</i> in the history of Buddhism (6)-(7) Main philosophical tenets (8)-(10) <i>Tathāgatagarbha</i> passage (11)-(13) <i>Pañcadharma</i> passage (14)-(15) Students' presentations Winter Semester 冬学期 (1)-(4) <i>Pañcadharma</i> passage (5)-(9) <i>Gaṅgānadībālukāsamās tathāgatāḥ</i> passage (10)-(13) <i>Kṣaṇabhaṅga</i> passage (14)-(15) Students' presentations
授業の方法	In the first part of the summer semester, classes (1) to (7), we shall review the historical and philosophical background of the Tathāgatagarbha tradition. From class (8) on, students are expected to prepare in advance the primary sources scheduled to be read and analysed.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	B. Nanjio ed., <i>The Laṅkāvatāra Sūtra</i> Hadano Hakuyū et al. eds. <i>Shō nyū ryōga kyō chū (Ārya-Laṅkāvatāravṛtti; 'Phags pa lang kar gshegs pa'i 'grel pa)</i> [by] <i>Jñānaśrībhadrā</i> (Handouts containing relevant materials will be distributed in class.)
参考文献	Daisetz Teitaro Suzuki, <i>Studies in the Laṅkāvatāra Sūtra</i>

	Takasaki Jikidō 高崎直道, <i>Ryōga kyō</i> 楞伽經 (佛典講座 17) Takasaki Jikidō 高崎直道, <i>Daijō ki shin ron, Ryōga kyō</i> 大乘起信論・楞伽經 (An extensive bibliography will be provided in the class.)
準備学習 (予習・復習等)に必要な時間等	予習: 2時間 復習: 2時間
履修上の注意	The participants must have basic knowledge of English and at least one canonical language.
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20016
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習 4単位
時限	月曜日5時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	<i>The Śrāvakabhūmi</i>
授業の目的・概要	The seminar aims at improving the philological skills necessary for reading difficult passages in Sanskrit and establishing a reliable critical edition from manuscript(s) collated with the Tibetan and Chinese translation(s). For this purpose, we shall focus on the <i>Śrāvakabhūmi</i> . This year, we shall focus on the complex doctrinal system and spiritual practices developed by the authors of the <i>Śrāvakabhūmi</i> set against the historical background of Mainstream Buddhism and the formation of the Yogācāra-Vijñānavāda school.
到達目標	-- Deepen knowledge of Buddhist philology and canonical languages -- Build up the skills necessary for critical editions and annotated translations. -- Improve palaeographical and codicological expertise in working with Indic manuscripts. -- Deepen the understanding of the Buddhist teachings and practices in their historical development.
授業計画	Summer Semester 夏学期 (1)-(3) The <i>yogin/yogācāra</i> tradition and the formation of the Yogācāra school (4)-(5) Introduction to the <i>Yogācārabhūmi</i> , (6)-(8) Passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , Shōmonji kenkyūkai ed. 1-3 (9)-(14) Passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , Shōmonji kenkyūkai ed. 4-10 (15) Students' presentations Winter Semester 冬学期 (1)-(3) Passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , Shōmonji kenkyūkai ed. 11-14 (4)-(9) Passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , Shōmonji kenkyūkai ed. 14-18 (10)-(14) Passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , Shōmonji kenkyūkai ed. 14-18 (14) Students' presentations
授業の方法	In the first part of the summer semester, from classes (1) to (5), I shall give introductions to the subjects mentioned above. From class (6) on, students are expected to prepare in advance the materials we are scheduled to cover. Apart from reading the text in Sanskrit, Classical Tibetan, Classical Chinese, and Classical Japanese, we shall also discuss the principles and methodology of a reliable critical edition and annotated translation. Furthermore, special attention will be paid the doctrinal content, too, tracing various ideas and concepts to their canonical roots and Abhidharmic developments.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	声聞地研究会 1998 『瑜伽論 声聞地 第一瑜伽処-サンスクリット語テキストと和訳-』 Shukla, Karuneshā ed. 1973. <i>Śrāvakabhūmi of Ācārya Asaṅga</i> Deleanu, Florin. 2006. <i>The Chapter on the Mundane Path (Laukikamārga) in the Śrāvakabhūmi: A Trilingual Edition (Sanskrit, Tibetan, Chinese), Annotated Translation, and Introductory Study</i>

参考文献	Apart from Deleanu 2006 (see above), an updated review of editions and primary sources will be distributed in class.
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習：2時間 復習：2時間
履修上の注意	The participants must have good knowledge of Sanskrit, Classical Tibetan, Classical Chinese, and Classical Japanese. Solid knowledge of English is also necessary.
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20017
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習 2単位
時限	集中講義 ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	Anne MacDonald 客員教授（オーストリア科学アカデミー研究員）
授業題目	The Profound Dependent-Arising
授業の目的・概要	The concept of “dependent-arising” (Pāli <i>paṭiccasamuppāda</i> ; Skt. <i>pratītyasamutpāda</i> ; Tib. <i>rtēn cing 'brel bar 'byung ba</i>) occurs in early canonical Buddhist works primarily in connection with a 12-linked, less often a 10-linked, stereotypical formula that was understood as an analysis of rebirth and its causes. Later developments, specifically in the Abhidharma schools, broadened the scope of dependent-arising to include the external world: it was explained that all things depend on causes and conditions inasmuch as they come into being in reliance on these. Madhyamaka scholars utilized the earlier expositions on dependent-arising when speaking about the everyday level of reality (<i>saṃvṛtīsatya</i>), but in discourses on ultimate reality (<i>paramārthasatya</i>), they set forth a radical reinterpretation of the law of dependent-arising, one which in the end denied the true reality of the things accepted on the everyday level. The course will primarily focus on Nāgārjuna’s and Candrakīrti’s views on the topic.
到達目標	The course aims to acquaint students with the historical development of the concept of dependent-arising and to introduce them to and/or refine their understanding of – on the basis of a close reading of primary texts – the Madhyamaka school’s reinterpretation of it.
授業計画	1. Introduction 2. Continuation of Introduction; Dependent-arising in the Pāli Canon 3. Dependent-arising in Conservative Buddhism 4. Reading MMK 4 (<i>kārikās</i> only) 5. Reading MMK 4 (<i>kārikās</i> only) 6. Reading MMK 5 (<i>kārikās</i> only) 7. Introduction to MABh, Reading MABh 8. Reading MABh 9. Reading MABh 10. Reading MABh 11. Reading MABh 12. Reading MABh 13. Reading MABh 14. Reading MABh 15. Reading MABh and Concluding Remarks
授業の方法	Lecture, text reading, discussion
成績評価方法	平常点にて各学期で評価 [Based on class performance]

テキスト	1) <i>Mūlamadhyamakakārikā</i> 2) Draft critical edition of the <i>Madhyamakāvātārabhāṣya</i> (passages from chapter 6), to be made available at the beginning of the course
参考文献	de La Vallée Poussin, Louis. <i>Madhyamakavṛttiḥ: Mūlamadhyamakakārikās (Mādhyamikasūtras) de Nāgārjuna avec la Prasannapadā Commentaire de Candrakīrti</i> . Bibliotheca Buddhica 4. St. Pétersbourg 1903-1913. de La Vallée Poussin, Louis. <i>Madhyamakāvātāra par Candrakīrti. Traduction Tibétain</i> . St. Petersburg: Imperial Academy of Sciences, 1907-1912. Huntington, C.W. <i>The Emptiness of Emptiness. An Introduction to Early Indian Mādhyamika</i> . Honolulu: University of Hawaii Press, 1989. Siderits, Mark & Katsura, Shoryu. <i>Nāgārjuna's Middle Way. Mūlamadhyamakakārikā</i> . Boston: Wisdom Publications, 2013. Ye, Shaoyong. <i>Zhungleunsong: Fanzanghan Hejiao, Daodu, Yizhu</i> [Mūlamadhyamakakārikā: New Editions of the Sanskrit, Tibetan and Chinese Versions, with Commentary and a Modern Chinese Translation]. Shanghai: Zhongxi Book Company, 2011.
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	(a) Preparation: 120 min (b) Revision/review: 120 min
履修上の注意	特になし
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20018
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究 4単位
時限	金曜日2時限目
担当教員氏名	斉藤 明 教授
授業題目	中観思想史研究
授業の目的・概要	周知のように、非有非無や不苦不楽の中道説は、仏教思想の基本的な立場を表明する。＜縁起＞を根拠にしたこの中道説は、2~3世紀のナーガールジュナ（龍樹）によってその意義が再認識され、『中論』を起点とする「中観」思想をもたらすことになる。4~6世紀には大乘仏教を代表する部派となった瑜伽行・唯識学派と、6世紀以降のインド仏教史に多大な影響力をもった中観学派の両学派は、一面では、中道の本家争いともいえる活発な論議を展開した。他方、5世紀初頭の鳩摩羅什訳『中論』『十二門論』『百論』を基礎に、中国では6世紀後半以降、三論学派の成立を見た。 この授業では、夏学期は、瑜伽行派の思想を基礎づけたヴァスバンドゥ（世親 350-430/400-480 頃）の『唯識二十論』にみる唯識説の内容と論理を、テキストを精読しながら講義する。その上で冬学期は、バーヴィヴェーカの主著『中観心論』の中の、瑜伽行派の学説批判を主題とする第5章（総計114偈）における唯心説批判の箇所を講読し、中観学派成立の意図と背景を再考する。
到達目標	中観思想史を的確に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2 中道説と「中観」思想 3-15 『唯識二十論』 <i>Vimś[at]ikā-kārikā, -vṛtti</i> 講読 冬学期 1 復習と解説 2 初期仏教と中道説 3-15 『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> 第5章部分講読

授業の方法	講義と関連テキストの講読を中心とし、必要に応じて関連資料を配布して利用する。積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価する。
テキスト	J. A. Silk, <i>Materials Towards the Study of Vasubandhu's Viṃśikā</i> (I), Harvard Oriental Series 81, 2016. Chr. Lindtner, <i>Madhyamakahrdayam of Bhavya</i> , Adyar: The Adyar Library and Research Centre, 2001. M. D. Eckel, <i>Bhāviveka and His Buddhist Opponents</i> , Harvard Oriental Series 70, 2008. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	梶山雄一「唯識二十論」『世親論集』（大乘仏典 15）中央公論社,1976. 斎藤明他編『空と中観』（シリーズ大乘仏教 6）春秋社, 2012. その他は、授業の中で随時紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には3時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	丹念な予習・復習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20019
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究 4単位
時限	火曜日2時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	大般涅槃経の原典研究
授業の目的・概要	中国仏教や日本仏教に大きな影響を与えた大般涅槃経のインド語原典は断片的にしか伝えられていない。「如来常住」や「一切衆生悉有仏性」はインド原典でどのように表現されていたのか、漢文表現とは異なった観点から検証する必要がある。残されたサンスクリット断片と原典に忠実なチベット語訳を漢訳と比較する際に、それぞれの伝本の文化および言語環境を考慮することなしに、この重要で難解な経典を理解することはできない。原典の断片を分析しながら、インド仏教で仏性や一闍提の思想が成立した文脈を検討する。
到達目標	サンスクリット原典、チベット語訳、漢訳の性格を把握し、文献分析の基礎的方法を理解し、的確な内容分析能力を習得する。
授業計画	夏学期 第1回 概説 第2回 涅槃経典類の成立と構造 第3-5回 「如来常住」の原語と思想 第6-8回 サンスクリット断片読解と諸伝本との比較 第9-11回 「仏性」の原語と思想 第12-15回 サンスクリット断片読解と諸伝本との比較 冬学期 第1回 概説 第2-4回 戒律の問題と背景 第5-7回 サンスクリット断片読解と諸伝本との比較 第8-10回 一闍提の問題 第10-12回 サンスクリット断片読解と諸伝本との比較 第13-15回 大般涅槃経の構造
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、質問や疑問を出し合っ、それぞれのテーマについて議論を深める。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	Hiroimi Habata: <i>Aufbau und Umstrukturierung des Mahāparinirvāṇasūtra. Untersuchungen zum Mahāparinirvāṇa-mahāsūtra unter Berücksichtigung der Sanskrit-Fragmente</i> . Bremen: Hempen Verlag, 2019.
参考文献	Hiroimi Habata: <i>A Critical Edition of the Tibetan Translation of the Mahāparinirvāṇa-mahāsūtra</i> . Wiesbaden: Dr. Ludwig Reichert Verlag, 2013.

	Hiromi Habata: Die zentralasiatischen Sanskrit-Fragmente des Mahāparinirvāṇa-mahāsūtra. Kritische Ausgabe des Sanskrittextes und seiner tibetischen Übertragung im Vergleich mit den chinesischen Übersetzungen. Marburg: Indica et Tibetica Verlag, 2007. その他は授業の中で紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	授業に積極的に参加し、十分な学術知識の習得に努めることが望まれる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20020
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
時限	水曜日2時限目
担当教員氏名	斉藤 明 教授
授業題目	インド仏教思想関連文献講読
授業の目的・概要	インド仏教思想史上の主要なテキストを講読する。今年度は中観学派を確立したパーヴィヴェーカの主著『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> 中の第4「声聞の真実確定 [説] への [批判的] 入門」章を、注釈『論理炎論』 <i>Tarkajvālā</i> を参照しながら講読する。同章は著者が展開する大乘仏説論、および注釈において詳説される部派分裂史に関する資料としても貴重である。同章の内容と背景を分析・解説しながら、丹念に読み進める。サンスクリット語文法に関する基礎知識が望まれる。
到達目標	サンスクリット語で著された仏教論書の読解力を身につけるとともに、的確な内容理解を目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2-15 『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> 第4章講読 冬学期 1 導入と解説 2-14 『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> 第4章講読 15 総括
授業の方法	演習形式を基本とし、それぞれの文献の内容および研究史に関する解説を交える。授業では、テキストの読解ならびに内容に関する積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価。
テキスト	・ Chr. Lindtner, <i>Madhyamakahrdayam of Bhavya</i> , Adyar: The Adyar Library and Research Centre, 2001. ・ M. D. Eckel, <i>Bhāviveka and His Buddhist Opponents</i> , Harvard Oriental Series 70, 2008. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	・ 斎藤明「中観思想の成立と展開」『空と中観』（シリーズ大乘仏教6）春秋社, 2012, pp. 3-41. その他は、授業の中で随時紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には4時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20021
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
時限	木曜日5時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	ジャータカ文献講読
授業の目的・概要	仏教説話文献のジャータカの基礎文献を読解できるようになり、ジャータカ文献の概観と伝承の多様性を理解することを目的とする。
到達目標	サンスクリット語(仏教混淆サンスクリット語を含む)で著された仏教説話の読解力を身につける。
授業計画	夏学期 Jātakamālā に収録される Viśvantarajātaka 第1回 ジャータカ文献概観 第2-15回 Viśvantarajātaka 講読 冬学期 Mahāvastu に伝承される Puṇyavantajātaka 第1回 Mahāvastu 概観 第2-15回 Puṇyavantajātaka 講読
授業の方法	テキストを講読し、写本も適宜参照しながら、テキストの問題点を議論する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	Albrecht Hanisch: Āryaśūras Jātakamālā. Philologische Untersuchungen zu den Legenden 1 bis 15. Marburg: Indica et Tibetica Verlag, 2005. Émile Senart: Le Mahāvastu. tome troisième. Paris: À L'Imprimerie Nationale, 1897. Katarzyna Marciniak: The Mahāvastu. A New Edition. vol. III, Tokyo 2019.
参考文献	Akira Yuyama: The Mahāvastu-Avadāna. In Old Palm-Leaf and Paper Manuscripts. Tokyo 2001. その他は授業の中で紹介する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	丹念な予習と復習が望まれる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20022
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
時限	火曜日5時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	真福寺蔵『四十問答』の文献学的研究
授業の目的・概要	真福寺大須文庫は、豊富な中世仏教文献を所蔵する三大文庫の一つである。東寺観智院は杲宝(1306~1362)、真福寺大須文庫は能信(1291~1355)、金沢文庫は金沢北条氏の選書収蔵に依る。 真福寺蔵の『四十問答』は長らく著者不明の聖教であったが、天台寺門宗の千観内供(918~984)の撰述の可能性が高まってきた。 本講義では『四十問答』写本の書写年代、著者、本書の梗概等について順次考察し、千観著述の可否について決着する。
到達目標	日本中世の仏教写本の文献学的研究の方法を身に着けることが到達目標である。写本の書写年代については紙質から書字や注記、奥書等の詳細

	<p>な考察が要請される。その上で翻刻を行い、異体字を整理し本文を確定していく。一つ段落の本文が出来上がるとその内容について読解を試みていく。ここで本文と CBETA, SAT などと同定し、前後関係を見出していく。『四十問答』は天台の四教義に関する問答集であるが、化法四教（蔵通別円）に配当されているので合計で百六十問答が存する。翻刻し本文確定の上で通番号を付す作業も重要である。これらが文献学的研究の定番であることを周知し実践できるようにする。</p>
授業計画	<p>夏学期：①真福寺大須文庫の概要。②大須文庫の善本。③『四十問答』の書誌。④仏教目録等からの考察。⑤外題・内題・尾題。⑥丁数。⑦紙質と形態。⑧本文解読用工具書。⑨本文解読（1）。⑩本文解読（2）。⑪本文解読（3）。⑫本文解読（4）⑬本文解読（5）。⑭本文解読（6）。⑮夏学期のまとめと討論。</p> <p>冬学期：①本文解読（7）。②本文解読（8）。③本文解読（9）。④本文解読（10）。⑤本文解読（11）。⑥本文解読（12）。⑦「蔵」四十問答のまとめ。⑧つづき。⑨「通」四十問答のまとめ。⑩つづき。⑪「別」四十問答のまとめ。⑫つづき。⑬「円」四十問答のまとめ。⑭つづき。⑮発表と討論。</p>
授業の方法	<p>前半は講義形式で中世仏教写本の文献学的取り扱いについて講義を行う。</p> <p>本文解読に入ると受講者が順次受け持ち、読解に取り組む。基本的な読解の方法は、講義室に備え付けられた叢書・全集等の研究参考書を実際に用いることで速やかに身に付くようになる。</p> <p>受講者は引用原典の比定にあたって原文を直接調べるのが肝要である。CBETA や SAT 等のテキストデータだけに頼って読解することは慎まなければならない。</p>
成績評価方法	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
テキスト	真福寺大須文庫蔵『四十問答』を随時配布
参考文献	『異体字辞典』、『類聚名義抄』（天理善本叢刊本）、福田堯穎『天台学概論』、諦観撰『天台四教儀』
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	20023
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
時限	金曜日3時限目
担当教員氏名	池 麗梅 准教授
授業題目	漢文大蔵経史研究—10～13世紀
授業の目的・概要	東アジア仏教にとって、漢文大蔵経を中心とする漢文仏教典籍はその思想文化の源流であり、また常に思想・信仰上の拠りどころ、基盤であり続けてきた。この授業では、漢文大蔵経の歴史を俯瞰した上で、特に10から13世紀にかけて現れた刊本大蔵経を中心に、それらの成立・変遷や、周辺諸国への伝播と後世への影響などについて、体系的に解説する。
到達目標	10～13世紀の漢文大蔵経史を俯瞰的に理解することを目指す。
授業計画	夏学期

	第 1-3 回 漢文大蔵経史の概観 第 4-8 回 開宝蔵の開板と影響 第 9-13 回 金蔵の出現と変遷 第 14-15 回 ディスカッション・総括 冬学期 第 1 回 復習と概説 第 4-8 回 江南系統大蔵経の開板と影響 第 9-13 回 思溪蔵の歴史と現在 第 14-15 回 ディスカッション・総括
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、必要に応じて参考資料も配布する。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）またはレポートにて通年で評価。
テキスト	野沢佳美『印刷漢文大蔵経の歴史—中国・高麗篇』（シリーズ・アタラクシア 3）、東京：立正大学情報メディアセンター、2015 年。
参考文献	李富華・何梅『漢文仏教大蔵経研究』、北京：宗教文化出版社、2003 年。 李際寧『仏経版本』（中国版本文化叢書）、南京：江蘇古籍出版社、2002 年。 大蔵会編『大蔵経—成立と変遷—』、京都：百華苑、昭和 39 年（1964）。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には 2 時間、復習には 2 時間の時間をかけること
履修上の注意	予習・復習と、積極的な授業参加が望まれる。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	20024
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4 単位
時限	木曜日 3 時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	『摩訶止観』研究
授業の目的・概要	<p>『摩訶止観』は天台三大部の一書として知られ、全仏教の瞑想や観法などの実修を「止観」のもとに体系づけた書である。我が国には鑑真によってもたらされ、最澄も入唐の際に持ち帰っている。中国天台では湛然の『止観輔行伝弘決』以来多くの注釈書が作成され、我が国でも平安中期以降盛んに講究された。</p> <p>本講はこの書を湛然や我が国の宝池房証真、癡空、守脱などの注釈書を手引きに講読し、東アジア仏教における実践体系を理解し、仏教全体の把握の一助とするのが目的である。</p>
到達目標	テキストとその注釈書を読んで、漢文訓読に慣れて習熟するとともに、その内容を受講者自身の努力によって十分に理解することを目標とする。
授業計画	第 1～2 講 天台智顛の事績の概観、次に『摩訶止観』の成立、中国日本における流伝について概説する。以降は受講者による輪読。卷三下第 5 章の「偏円」段の途中（テキスト第二冊、419 頁）から読み始める。 第 3～15 講 第 5 章「偏円」の途中から、卷第四上第 6 章「方便」の中の「持戒」段（テキスト第二冊 542 頁）まで。 第 16～30 講 前期の続きから、卷第四下第 6 章「方便」の中の「棄五蓋」（テキスト第三冊、69 頁辺り）まで。
授業の方法	テキストの輪読形式で行う。本書には参考書や解説書が多くあるので、受講者は各自それらを利用して授業に備えてもらいたい。

成績評価方法	平常点（出席率を含む）にて通年で評価
テキスト	『摩訶止観』天台大師全集本を使用する。上記の湛然等の注釈書が会本になっていて便利である。コピーを配布する。
参考文献	教場で指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間以上、復習には2時間程度の時間をかけること。
履修上の注意	予習のうえ、出席励行のこと。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20025
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
時限	木曜日2時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	金剛寺聖教『念仏要文抄』の研究
授業の目的・概要	前年度に続き金剛寺聖教の現存する唯一の写本である『念仏要文抄』（仮題）の研究を進める。本書には“踊念仏和讃”なるものが含まれている。本和讃は時宗にその伝承が無いばかりか、諸文献にも全く見られない資料である。落合の幾つかの報告にも関わらず本和讃の撰述者と価値については認知されていない。そこで『念仏要文抄』全体はどのような文献であるのか、綿密な解読作業を通じて概要把握に努めていく。その過程で浄土宗西山派の教義が随所に展開していることが理解できる。
到達目標	日本中世の浄土教文献『念仏要文抄』がどの位置に立つのか、解読作業を通じて確定していくことが目標である。日本の浄土教は大きく分けると天台浄土教、法然浄土教、親鸞浄土教、一遍浄土教の四つに分類できる。本書は明らかに一遍浄土教に位置する重要文献であるが、時宗史に本書の存在を記した記録が無いことから近世にできた偽書ではないかとの指摘がある。本演習の精密な解読作業を通じて謎の文献を解明していく。
授業計画	夏学期（前年度の復習を2回行う）：①日本仏教における一遍。②一遍の語録と『一遍聖絵』。③～⑮『念仏要文抄』読解と分析。 冬学期：①『念仏要文抄』読解続き。②続き。③読み。④続き。⑤続き。⑥続き。⑦続き。⑧続き。⑨続き。⑩続き。⑪続き。⑫続き。⑬続き。⑭続き。⑮続き。 冬学期：①『念仏要文抄』読解続き。②続き。③読み。④続き。⑤続き。⑥続き。⑦続き。⑧続き。⑨続き。⑩続き。⑪続き。⑫続き。⑬続き。⑭まとめ（1）。⑮まとめ（2）。
授業の方法	演習形式で授業を進める。各自担当箇所の校訂・読解研究を準備してきてレジメを受講生の人数分コピーし配布する。担当していない受講生各人も共通理解のために積極的に発言することが望まれる。授業にあたっては基本的な辞書等の参考書を各人の机の上に置き、ノートパソコンを学内ネットにつなぎ、SATやCBETAなどにつないで異読を確認する。 なお、通常、電子辞書は有用であるが、旧漢字（正字）使用に慣れるために電子辞書の使用は禁止する。
成績評価方法	平常点にて通年評価。
テキスト	金剛寺聖教『念仏要文抄』を随時配布。
参考文献	日本の絵巻『一遍聖絵』（中央公論社）。『一遍語録』（岩波文庫）。『一遍聖絵』（岩波文庫）。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20026
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
時限	金曜日4時限目
担当教員氏名	池 麗梅 准教授
授業題目	東アジア仏教文献講読
授業の目的・概要	東アジア仏教文献の代表的なテキストを順次取りあげていくが、今年度は『大蔵経綱目指要録』を講読する。『大蔵経綱目指要録』は、北宋時代の禅僧惟白が作成した現存最古の漢文大蔵経の解題書であり、初期の開宝蔵の目録を復元する上で、不可欠な基礎的文献である。この授業は、同書のテキスト変遷、開宝蔵目録の復原、教禅一致という時代的・思想的背景などを総合的に検討することを目的とする。
到達目標	写本テキストの翻刻・校訂などの基礎訓練を行い、漢文の現代語訳に習熟し、テキスト内容を正確に理解した上で、的確な解釈もできるようになることを目標とする。
授業計画	夏学期 第1-2回 『大蔵経綱目指要録』の概説 第3-14回 「第一巻」講読 第15回 ディスカッション・総括 冬学期 第1-2回 復習と概説 第3-14回 「第八巻」講読 第15回 ディスカッション・総括
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻刻・校訂・現代語訳するだけでなく、内容の分析、その背後にある思想的背景を併せて考察する。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）またはレポートにて通年で評価
テキスト	日本五山版本・中国国家図書館蔵宋代刻本『大蔵経綱目指要録』
参考文献	必要に応じて関連資料を配布して利用する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	積極的な授業参加と活発な討論が期待される。担当者は発表原稿を人数分用意すること。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	20027
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
時限	木曜日4時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	『維摩経文疏』研究
授業の目的・概要	本講は、天台智顛が晩年に晋王廣に献上するために著したとされる『維摩経文疏』を講読し、それによって智顛の教学思想を検討することを目的とする。本書は智顛の最晩年の思想を窺うことのできる重要な『維摩経』注釈書であるが、同じ智顛の『維摩経玄疏』や湛然『維摩経略疏』などに比べてこれまで余り顧みられておらず、国訳もまだない。したがってまず文献を正確に読み進めていくことが必要なので、国訳の訳注原稿を作成しながらその原稿の検討を行うことにしたい。
到達目標	テキストとその注釈書を読んで、漢文訓読に慣れて習熟するとともに、その内容を受講者自身の努力によって十分理解することを目標とする。
授業計画	初めての受講者がある場合、『維摩経文疏』についての概略を講義し、その後受講者の原稿発表という形式で演習を行う。したがって受講者は予め分担を決め、一定の書式で原稿を作成し、授業の際にその原稿を検討し、訂正して確定校を作成する。それがある程度の分量に達したならば、本学の研究紀要などの媒体に発表することにした。本年度は2019年度の続き部分から講読する。 第1～2講 『維摩経文疏』の解題。 第3～6講 テキスト巻四の途中486a5から487a4まで。 第7～15講 続き部分から489b3まで。 第16～30講 続き部分から493c20まで。
授業の方法	演習形式でテキストを講読する。ローテーションを決め、毎回の発表者は分担部分の原稿を作成し、教場でそれを発表する。発表原稿はその場で検討し、添削修正し、それを本講における受講者全員の共通理解とする。
成績評価方法	平常点（授業中の発表を中心に出席率を含む）にて通年で評価。
テキスト	『新纂大日本統蔵経』巻18所収の『維摩経文疏』を使用する（コピーを教場にて配布）
参考文献	詳細は教場で指示するが、湛然の『維摩経略疏』は大正蔵テキスト第三十八巻から各自該当部分を複写しておくこと。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には3時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	出席励行のこと。発表者は必ず原稿を用意し、クラス全員に配布すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20028
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と生命倫理） 2単位
時限	集中講義（夏学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山 泰弘 講師（前埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と生命思想
授業の目的・概要	人工授精や臓器移植など生命に関わる技術の進展は、現代の生命科学の大きな達成であるが、それが人間生活にもたらす意味については、さまざまな分野から問題提起がなされている。この問題を仏教との関わりにおいて把握するのが、この授業の目的である。はじめに仏教倫理の特質を、現代の倫理学及び倫理思想の諸潮流との比較を通じて明らかにする。次いで仏教の生命観を検討しながら、現代の生命倫理をめぐる諸問題の理解を試みる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理に関わる現実の諸問題が多岐にわたることと、それに対してさまざまな思想的アプローチが可能であることを理解する。 ・生命倫理の問題が仏教の中にどのように位置づけられるかについて、理解を深める。
授業計画	<p><仏教倫理の位置></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の倫理学と仏教 2. 西欧の倫理思想と仏教倫理 3. 徳倫理学と仏教 4. 仏教の倫理徳目 <p><生命倫理></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 生命倫理の諸テーマ 6. 生殖補助医療 7. 脳死と臓器移植 <p><仏教の生命観></p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 古代インドの生命観 9. 有情論 10. 受胎 11. 胎児 12. 自殺 13. 安楽死 14. 世俗倫理と仏教 15. 生命倫理と仏教
授業の方法	上記授業計画の内容に従って、関連資料を配付して概略を説明し、討論を行いながら、知識を深めていく。討論のなかで新しいテーマが出てきたときは、関連する資料を追加準備して次の回で扱う。授業の各回を通じて、いま問題にしている事項が仏教思想においてどこに位置するかという体系的な観点を考慮する。
成績評価方法	平常点にて各学期で評価
テキスト	毎回プリントを配布する。
参考文献	<p>青野由利『生命科学の冒険—生殖・クローン・遺伝子・脳』ちくまプリマー新書 2007年</p> <p>Harvey, Peter. : An Introduction to Buddhist Ethics, CUP. 2001</p> <p>Keown, Damien. : Buddhism and Bioethics. Palgrave 2001</p>
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には1時間、復習には3時間の時間をかけること
履修上の注意	特になし
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20029
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と環境問題） 2単位
時限	集中講義（冬学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山 泰弘 講師（前埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と環境思想
授業の目的・概要	今日の地球温暖化や野生生物の絶滅などの問題は、環境問題を地球規模のスケールで考察しなければならないことを示している。この授業の目的は、環境問題について仏教の視点から検討を加えることであるが、はじめに現代の環境問題を概観し、この問題の背景にある科学主義的な思考について、思想史的な立場から批評を行う。次いで仏教の多様な自然観とそれを支える価値意識について理解を試み、現代の環境倫理に対する仏教の貢献について考える。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現実の環境問題が多様であること、及び環境問題に対してアプローチするときに価値論的な視点が重要であることを理解する。 ・現代の環境倫理が提起する諸問題について、仏教独自の価値意識を考慮しながら理解を深める。
授業計画	<p><環境問題と環境倫理></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境倫理の諸問題 2 公害病 3 地球環境問題 4 放射能汚染 <p><科学技術の性格></p> <ol style="list-style-type: none"> 5 科学と価値 6 科学と技術 7 科学技術の変貌 <p><仏教の自然観></p> <ol style="list-style-type: none"> 8 自然観の諸相 9 古代インドの自然観 10 不殺生 11 植物 12 仏性 13 自然の価値（1）：理論的側面 14 自然の価値（2）：実践的側面 15 環境倫理と仏教思想
授業の方法	授業は、上に述べた幾つかの大きなテーマに関連する資料を紹介してその概略を説明し、出席者の間で意見を交換しながらより個別のテーマに絞り込み知識を深めるという方法をとる。個別のテーマを扱うときでも、常に環境問題全般に通ずる観点のもとで考察を深めていく。
成績評価方法	平常点にて各学期で評価
テキスト	毎回プリントを配布する。
参考文献	<p>H. リッケルト『文化科学と自然科学』（佐竹哲雄訳）岩波文庫 1939年 唐木順三『「科学者の社会的責任」についての覚え書』ちくま学芸文庫 2012年（1980年） 原実「不殺生考」国際仏教学大学院大学研究紀要 1（1998）pp. 1-37. 原実「植物の知覚」国際仏教学大学院大学研究紀要 2（1999）pp. 1-23. 原実『古代インドの環境論』東洋文庫 2010年 Schmithausen, Lambert : Buddhism and Nature, Studia Philologica Buddhica Occasional Paper Series VII, The International Institute for Buddhist Studies of the International College for Advanced Buddhist Studies, Tokyo, 2003</p>
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には1時間、復習には3時間の時間をかけること
履修上の注意	特になし
連絡方法	初回の授業で説明する

関連科目

科目番号	20030
科目名・単位数	宗教哲学 4単位
時限	月曜日5時限目
担当教員氏名	山田 利明 講師（東洋大学名誉教授）
授業題目	長生の思想と道教
授業の目的・概要	世界の多くの宗教が「死」を主題とするのに対して、道教は現世の永続、すなわち不老不死を目的とする。この授業では、道教の持つ不死の思想の歴史や構造を取り上げ、中国の宗教思想の一端を論じる。特に不死の観念の発生について考える。
到達目標	中国宗教史上の道教の位置を理解する。これによって中国的死生観の根源を理解する。また原文の講読を通して古典漢文の訓読法に通暁するとともに、漢語文法の構造を理解する。
授業計画	前期 1回目；前期講義の概要 2回；神仙とは何か 3回；神仙の文献 4回；道教の成立—陸修静と陶弘景 5回；道教と仏教 6回； 道教経典 7回；道士と道観 8回；唐代の道教（1） 9回；唐代の 道教（2）10回；宋代道教 11回；宋学と道教 12回；明・清の道教 13 回；民衆宗教の性格 14回；道教と民間信仰 15回；儒仏道三教の交渉 後期 1回目；後期授業の概要 2回以降6回まで『歴世神仙体道通鑑』を読み ながら、得仙の実態を考える。後期は実際の道教文献を読みながら、得仙 の実態を考える。
授業の方法	前期授業は道教史の諸要件を講義し、道教という民衆宗教を正確に理解することに資する。後期は実際の道教文献を読みながら、神仙・信仰・祭儀などの実態を理解する。 また、道教の一切経である『道蔵』の歴史や構成、主要な経典について理解し、それらの経典の一部を読むことで道教と仏教の関係を知らることが出来る。 以上のように、この授業では直接、道教文献を読みながら道教の在り方を考える。
成績評価方法	授業への貢献度—文献解釈・討論等への参加—典拠・論拠の明示 前期・後期各期1篇ずつのレポート（5,000字以上）を課す。
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	『道教史』窪徳忠、1977、山川出版社 『初期の道教』1991、創文社 『道教事典』坂出、野口等、1994年、平河出版社
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間以上の時間をかけること
履修上の注意	漢文文献の講読を主とする。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20101
科目名	仏教学特殊研究
時限	水曜日3時限目(夏学期)
担当教員氏名	<p>代表者： 藤井 教公 教授</p> <p>落合 俊典 教授 齊藤 明 教授</p> <p>池 麗梅 准教授 デレアヌ フロリン 教授</p> <p>幅田 裕美 教授 藤井 教公 教授</p>
授業の目的・概要	<p>本学教員、並びに外部講師と受講者の学生諸君が、現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることを授業の目的とする。またこの授業を学生諸君にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。</p>
到達目標	<p>学生諸君が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。</p>
授業計画	<p>初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。</p>
授業の方法	<p>初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意してパワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。</p>
成績評価方法	<p>履修単位は設定されていない。</p>
テキスト	<p>発表担当者が各自用意し、配布する。</p>
参考文献	<p>発表担当者がその都度指示する。</p>
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	<p>事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には1時間程度、復習には1時間程度の時間をかけること。</p>
履修上の注意	<p>全学生は目的意識をもって必ず参加すること。</p>
連絡方法	<p>初回の授業で説明する。</p>

科目番号	20102
科目名	仏教学特殊研究
時限	水曜日3時限目(冬学期)
担当教員氏名	<p>代表者： 齊藤 明 教授 落合 俊典 教授 齊藤 明 教授 池 麗梅 准教授 デレアヌ フロリン 教授 幅田 裕美 教授 藤井 教公 教授</p> <p>伊吹 敦 講師(東洋大学教授 10月21日担当) 室寺 義仁 講師 (滋賀医科大学教授 11月18日担当) 高橋 晃一 講師(東京大学准教授 1月13日担当)</p>
授業の目的・概要	<p>本学教員、外部講師、ならびに学生が、現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマについて発表を行い、質疑応答と討論を通じて、仏教学に関する知見を深めることを目的とする。同時にまた、論文作成および学会発表の訓練の場として重要な意義をもつ。</p>
到達目標	<p>学生諸氏が研究発表に慣れるとともに、仏教学上の諸問題に関する知見を広め、理解を深めることを目標とする。</p>
授業計画	<p>初回の授業で、教員および学生が発表の順番と日時を決め、順次、現在取り組んでいる研究テーマに関する発表を行う。</p>
授業の方法	<p>発表者はパワーポイント、スライド、配布資料などを用い、一時間程度を持ち時間として発表を行う。その上で、出席者全員による質疑応答と討論を行う。</p>
成績評価方法	<p>履修単位は設定されていない。</p>
テキスト	<p>各回、発表担当者がレジメを用意し、配付する</p>
参考文献	<p>必要に応じて発表担当者が指示する。</p>
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	<p>必要に応じて予習には1時間程度、復習には1時間程度の時間をかけること。</p>
履修上の注意	<p>全学生は、目的意識をもって必ず参加すること。</p>
連絡方法	<p>初回の授業で説明する</p>

科目番号	20103
科目名・単位数	日本語 I 4 単位
時限	火曜日 2 時限目・金曜日 2 時限目
担当教員氏名	宮田 聖子 講師 (東京工業大学非常勤講師)
授業題目	初級・中級前期の日本語 —初級文型とその応用—
授業の目的・概要	日本語レベル初級及び中級初期 (学習時間 0~400 時間未満) の学生を対象に行う。 日本語の基本構造を習得し、四技能 (話す・聞く・読む・書く) を養う活動へ発展させる。自分の意見をまとめ発表する力を身につける。 日常生活や学内での基本的な活動が問題なく行える日本語コミュニケーション能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験 N2 レベル程度の日本語の力の獲得
授業計画	<p>夏学期</p> <p>第 1 週 (1・2 回) : 初級文型 1 ・「話す・聞く」技能 第 2 週 (3・4 回) : 初級文型 2 ・「話す・聞く」技能 第 3 週 (5・6 回) : 初級文型 3 ・「話す・聞く」技能 第 4 週 (7・8 回) : 初級文型 4 ・「話す・聞く」技能 第 5 週 (9・10 回) : 初級文型 5 ・「読む・書く」技能 第 6 週 (11・12 回) : 初級文型 6 ・「読む・書く」技能 第 7 週 (13・14 回) : 初級文型 7 ・「読む・書く」技能 第 8 週 (15・16 回) : 初級文型 8 ・「読む・書く」技能 第 9 週 (17・18 回) : 初級文型 9 ・四技能 第 10 週 (19・20 回) : 初級文型 10 ・四技能 第 11 週 (21・22 回) : 中級文型 1 ・四技能 第 12 週 (23・24 回) : 中級文型 1 ・四技能 第 13 週 (25・26 回) : 中級文型 2 ・四技能 第 14 週 (27・28 回) : 中級文型 3 ・四技能 第 15 週 (29・30 回) : 中級文型 4 ・四技能</p> <p>冬学期</p> <p>第 1 週 (1・2 回) : 中級文型 5 ・四技能 第 2 週 (3・4 回) : 中級文型 6 ・四技能 第 3 週 (5・6 回) : 中級文型 7 ・四技能 第 4 週 (7・8 回) : 中級文型 8 ・読解・論述 第 5 週 (9・10 回) : 中級文型 9 ・読解・論述 第 6 週 (11・12 回) : 中級文型 10 ・読解・論述 第 7 週 (13・14 回) : 総合 1 ・読解・論述 第 8 週 (15・16 回) : 総合 2 ・読解・論述 第 9 週 (17・18 回) : 総合 3 ・読解・論述 第 10 週 (19・20 回) : 総合 4 ・読解・論述 第 11 週 (21・22 回) : 総合 5 ・読解・論述 第 12 週 (23・24 回) : 総合 6 ・読解・論述 第 13 週 (25・26 回) : 総合 7 ・読解・論述 第 14 週 (27・28 回) : 総合 8 ・プレゼンテーション 第 15 週 (29・30 回) : 総合 9 ・プレゼンテーション</p>
授業の方法	テキストを使用し、初級前半においては、予習確認の小クイズ、文法の学習、応用練習を行う。読解の授業では語彙クイズ、読解、文法確認、討論、作文、発表の順に行う。また、毎回宿題を課す。
成績評価方法	平常点 (授業中の発表を含む) にて通年で評価
テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。

参考文献	『みんなの日本語初級Ⅰ，Ⅱ』スリーエーネットワーク 各国語版文法解説 『新完全マスター 日本語能力試験 読解 N3, N4』スリーエーネットワーク 『TRY! 日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語』アスク出版 『中級日本語文法要点整理ポイント 20』スリーエーネットワーク
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習に2時間程度、復習に2時間程度の時間をかけること
履修上の注意	出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20104
科目名・単位数	日本語Ⅱ 4単位
時限	火曜日3時限目
担当教員氏名	宮田 聖子 講師（東京工業大学非常勤講師）
授業題目	中級後期・上級の日本語 —学術的活動へ—
授業の目的・概要	日本語レベル中級後半（初級基礎文型の習得が終了しており、学習時間が概ね450時間程度）以上の学生を対象に行う。 学術論文の読解ストラテジーを獲得する。また、討論、論評する活動を通してテーマについて論述するスキルと、それを口頭発表するプレゼンテーションスキルを養う。 日本語能力試験に向けて総合的なスキルを伸ばす。 日本での研究活動が十分に行えるより高度な日本語能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N1レベル程度の日本語力の獲得
授業計画	夏学期 第1回：文法1 第2回：文法2 第3回：文法3 第4回：文法4 第5回：文法5 第6回：文法6 第7回：文法7 第8回：読解1 第9回：読解2 第10回：読解3 第11回：読解4 第12回：読解5 第13回：読解6 第14回：読解7 第15回：読解8 冬学期 第1回：試験対策1 第2回：試験対策2 第3回：試験対策3 第4回：試験対策4 第5回：試験対策5 第6回：試験対策6 第7回：試験対策7 第8回：作文指導1 第9回：作文指導2 第10回：作文指導3 第11回：作文指導4 第12回：作文指導5

	第13回：プレゼンテーション指導1 第14回：プレゼンテーション指導2 第15回：プレゼンテーション指導3
授業の方法	テキストを用いて、予習を確認する小クイズ、読解作業、文法事項確認、討論、作文を行う。
成績評価方法	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
テキスト	受講生のレベルに応じて決定する。
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版、 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク 『上級日本語学習者対象 アカデミックライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習に2時間程度、復習に2時間程度の時間をかけること
履修上の注意	出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	20105
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅰ 4単位
時限	水曜日4時限目
担当教員氏名	田戸 大智 講師（早稲田大学非常勤講師）
授業題目	仏教漢文読解入門
授業の目的・概要	<p>仏教では後漢の頃より仏典の漢訳が開始され、多くの漢訳仏典やそれにもとづく註釈書などが生み出された。仏教思想を解明するためには、正確な読解が要求されることは贅言を要しない。</p> <p>本講義では、伝統的な訓読法を用いて、仏教漢文が読解できるようになることを目的としている。日本では漢文を日本語で解釈するための訓読法が体系化され、仏教漢文もまたこの方法によって理解されてきた。訓読法を習得すれば、文法構造を把握する能力が高まり、感覚的に読むことで起きる間違いを防止できる利点がある。特に日本仏教研究を行うためには、訓読法を習得することが必須である。</p> <p>そこで、訓読による仏教漢文の読解を修練していくために、前期ではまず、テキストにもとづいて基本文法を確認する。次に後期では基本文法を適宜参照しながら、様々な仏教漢文を取り上げ、実践的に訓読法を学習していきたい。後期では、経典や論書、中国の伝記史料、日本の仏教漢文などを読み進めていく予定である。</p>
到達目標	日本の凝然（1240～1321）が撰述した『八宗綱要』上下2巻（大日本仏教全書3所収）を訓読できる能力の修得を到達すべき目標としたい。
授業計画	<p>前期</p> <p>1 ガイダンス、訓読の必要性</p> <p>2～3 仏教漢文の学習方法、漢和辞典・仏教辞典の使用法と実習</p> <p>4～5 テキストとプリントの実習（1～3章）</p> <p>6～7 テキストとプリントの実習（4～5章）</p> <p>8～9 テキストとプリントの実習（6～7章）</p> <p>10～11 テキストとプリントの実習（8～9章）</p> <p>12～13 テキストとプリントの実習（10～11章）</p> <p>14～15 テキストとプリントの実習（12～14章）</p> <p>後期</p> <p>1 ガイダンス</p> <p>2～3 『法苑珠林』・『生経』</p> <p>4～5 『過去現在因果経』・『金剛般若経』・</p> <p>6～7 『理惑論』・『沙門不敬王者論』</p> <p>8～9 慧皎『高僧伝』・道宣『続高僧伝』</p> <p>10～11 道宣『集神州三宝感通録』・僧肇『肇論』</p> <p>12～13 法藏『華嚴五教章』・基『大乘法苑義林章』</p> <p>14～15 諦観『天台四教義』・凝然『八宗綱要』など</p>
授業の方法	毎回配付する資料にしたがって授業を進める。漢文はすべてノートに書き写し、返り点を付したり書き下し文に直す作業を繰り返す。また声に出して読むことで漢文のリズムを習得する。語彙が不明である場合は、常に漢和辞典や仏教辞典で調べるよう訓練する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	『句形演習 新・漢文の基本ノート〈二色刷〉』（日栄社、1998）を主なテキストとし、『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社、2015）も必携とする。この他、プリントを配付する。
参考文献	加地伸行『漢文法基礎—本当にわかる漢文入門—』（講談社学術文庫、2010）、金岡照光『仏教漢文の読み方』（春秋社、1978）、木村清孝編著『仏教漢文読本』（春秋社、1990）、その他、各辞典などは教場にて指示する。

準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	講義で配付した資料は、予習と復習を通して繰り返し読み込むことが実力の向上につながる。訓読の基本文法はテキストを適宜参照して解説するが、演習問題は各自復習して頂きたい。予習には120分、復習には120分の時間をかけること
履修上の注意	①授業では漢文訓読を実習形式で行うので、専用ノートを準備して予習と復習を必ず行う。 ②電子辞書や電子機器類の使用は禁ずる。語彙は必ず辞書で調べるようにする。 ③「古文・漢文読解Ⅱ」の講義を併せて聴講することが望ましい。
連絡方法	メール（初回の授業で確認する）

科目番号	20106
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅱ 4単位
時限	水曜日5時限目
担当教員氏名	小島 裕子 講師（早稲田大学非常勤講師）
授業題目	仏典訓読初学講座
授業の目的・概要	<p>仏典の漢文は記載言語として表わされた古典語（文語）で、たとい現代中国語を母国語として自在に使用しているとしても、その特殊な文章構造の分析を介した完全な理解という点では次元を異にしよう。こと日本においては、漢字文化の受容とともに、その言語表記を享受するため、日本語によって漢文の文章構造を分析し、正確に文意を解釈するための学問が古来より培われてきた。「訓読」である。</p> <p>本講座は、漢文訓読のなかでも、特に寺院文化圏における学僧が行ってきた仏典訓読の学問を視野に入れ、とりわけ学ぶ機会の稀な「漢訳仏典に対する伝統的な訓読法」の習得をめざす。特に、漢文を訓読し、内容を理解する上で必要な、基礎としての「古典文法（文語）」の解説に重点を置いて授業を行う。</p> <p>仏教辞典における要語解説の表記を読み解きながら、解説に引用された典拠となる仏典の当該箇所を確認し、実例文献に基づく訓読法（訓点を付して訓読する方法）を教授する。またこれに併行して、訓読に有用な主要辞典（仏教学系・国語系）の使用方法について教示したり、訓読に対する理解を深めるための「日本語表記の変遷」などにも言及したりすることで、文献資料学を究める受講者各自の研究の将来に資する講義でありたい。</p>
到達目標	<p>貴重な仏教文献資料を詳細に読み解いてゆくために必要とされる日本語表記の習得、各種仏教辞典の特徴を把握し、要語項目を読解して実際の研究に生かす能力を身につけることをめざす。</p> <p>漢文の白文に訓点を付す方法を習得して実践に備え、併せて仏教に関連する文献を（声に出して読める力）も養いたい。</p>
授業計画	<p>《夏学期》</p> <p>1 初回到授業の指針を述べる。「望月仏教大辞典」から要語を選び、引用された漢文の訓読体を正しい文法理解によって読むことができるか、また旧漢字の表記に対応できるかなどの問題定義を行ない、以後の具体的な授業に臨む姿勢を確認する。</p> <p>2 「訓読」という学問① 大正新脩大蔵経の漢訳仏典に対する国訳一切経・国訳大蔵経・新国訳大蔵経・仏典講座等の紹介、解説。</p> <p>3 「訓読」という学問② 具体的に学僧が訓点を付した写本・版本を紹介し、「訓読」とは何かを学ぶ意識を備える。</p> <p>4 自ら「訓読」を行うために必要な主たる仏教学系辞典、および国語学系辞典の紹介を行なった上で、活用の実践に入る。</p> <p>以下、5回より演習と講義</p> <p>5-9 仏典に頻出する【「動詞活用表」作成プロジェクト】</p>

	<p>『妙法蓮華經』「如来寿量品」内の動詞を抽出、訓読の仕方について実際に辞書を引きながら学び、活用法を詳細な文法の解説を通して習得する。以下、動詞表は講義で遇した諸經典内の動詞についても随時書き込みを加え、年間を通して完成。</p> <p>10-12 仏典に頻出する仮定表現について、動詞の活用の型を徹底的に学び、それに伴う助動詞も同時に習得する。</p> <p>13-15 仏典に頻出する受身・使役などの助動詞の様々な事例・訓読、および関連の文法を習得する。</p> <p>《冬学期》</p> <p>16-17 仏典の型「六時成就（如是・我聞・一時・佛・在某所・与某衆俱）」、「白佛言」、「白～曰」などを学ぶ。</p> <p>18 仏典に頻出する副詞（否定・時間・範囲・程度・状態・語気）について概論的な講義を行い、以後の講義に備える。</p> <p>19-21 仏典に頻出する「否定副詞」事例・訓読、関連の文法</p> <p>22-24 仏典に頻出する「時間副詞」事例・訓読、関連の文法</p> <p>25-27 仏典に頻出する「程度副詞」事例・訓読、関連の文法</p> <p>28-29 仏典に頻出する「状態副詞」事例・訓読、関連の文法</p> <p>30 年度内総括 今年度の「動詞活用表」の完成</p> <p>「仏典に頻出する表現」について、毎回、様々な仏典から具体的な要文の事例を挙げ、前半でその漢文訓読と訓読に伴う文法の要点を解説、後半で当該箇所を含む実際の仏典を一覧し、要文の周辺部を含めた訓読の演習を行う。</p>
授業の方法	<p>講義と演習（習熟のための練習）を繰り返すことで、受講者のリテラシーの向上をはかる。</p> <p>年間を通して、一般古典の文法書に挙がる用例では不十分な「仏典に頻出する動詞」について、その活用と仮名訓を一覧できる独自の【「動詞活用表」作成プロジェクト】を受講生とともに遂行、当該教室における成果として構築してゆく。表の作成は文字の記入のみに止まらず、声に出して復唱する実践を伴うことで、記憶的な効果へと繋ぐ。</p>
成績評価方法	平常点にて通年で評価。
テキスト	望月信亨『仏教大辞典』の要語項目の複写を主要テキストとして配布する。加えて仏典資料などを配布する。文語文法の解説書として『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社）、辞書として『新版古語辞典〈机上用〉』（角川書店）を各自の必携とする。
参考文献	中村元『仏教語大辞典』、望月信亨『仏教大辞典』、織田得能『仏教大辞典』、宇井伯壽『仏教辞典』、『日本仏教語辞典』（岩本裕）ほか各種仏教辞典。『日本国語大辞典〈第二版〉』（小学館）、『日本語文法大辞典』（明治書院）、『新大字典〈普及版〉』（講談社）、『漢字源〈改訂第五版〉』（学研）など各種国語辞典。上記以外の辞典についても、講義時に随時、紹介してゆく。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	<p>各自、毎回の講義で配布する参考資料をファイリングし、受講前の予習として必ず目を通した上で授業に参加すること。蓄積されゆく資料を重ねて通読することを通して、次第に理解は深まる。</p> <p>受講後は必ず授業内容を反芻し、次回の授業に備えること。準備学習として、予習に120分、復習に120分程度の時間を要する。</p>
履修上の注意	<p>本講座は、仏教文献資料学を遂行するために必要な基礎を学ぶ留学生の読み書き、リテラシーの向上をめざして開設する。日本語習得のステップを踏みながらの受講であることを配慮し、説明などは懇切に行ってゆくことを心がけるが、基礎を修めるといふことにおいて、日本語を母国語とする者と何らレベルの上で変わらぬ有益な内容を提示することを断っておきたい。</p> <p>継続履修の意義を念頭に、毎回の講義で具体的に訓読する仏典の文例は常に新規を提示してゆく。併設される「古文・漢文読解Ⅰ」とともに受講することが望ましい。</p>
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	20107
科目名・単位数	サンスクリット語 4単位
時限	月曜日3時限目
担当教員氏名	宮本 久義 講師 (元東洋大学教授)
授業題目	サンスクリット語入門
授業の目的・概要	サンスクリット語の文法を学習し、インド哲学仏教学文献の読解力を身につけることを目的とする。サンスクリット語はインドの文学、思想、宗教を育み、サンスクリット文化という言葉があるように、インド人が構築した有形・無形の価値観の理解に必須の言語である。インドではサンスクリット語の習得には三生かかるといわれている。これは大分誇張されたことばではあるが、実際文法規則が多いのは事実である。しかし、他の言語と同様、覚える規則は最小限に絞り、系統立てて学習することにより、十分習得可能な言語である。本講は初学者のために開講するが、復習のために参加したいという受講生も対象とする。
到達目標	サンスクリット文法の基礎を習得し、文法書と辞書を使用して各自が研究対象とする文献を研究する際の読解力を養うことを目標とする。
授業計画	<p>夏学期</p> <p>第1回：インドの言語について</p> <p>第2～3回：文字と発音</p> <p>第4回：母音の階梯、絶対語末</p> <p>第5～7回：連声法</p> <p>第8～10回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹</p> <p>第11～13回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹以外の語幹</p> <p>第14～15回：代名詞、数詞</p> <p>冬学期</p> <p>第1回：動詞の概要</p> <p>第2～5回：第1次活用法（現在・アオリスト・完了・未来）</p> <p>第6～8回：第2次活用法（受動・使役）</p> <p>第9～11回：準動詞（過去分詞など）</p> <p>第12～13回：複合語</p> <p>第14回：韻律</p> <p>第15回：総括</p>
授業の方法	長柄行光著『サンスクリット文法』に従って解説する。補足すべき点があれば、資料を配布する。文法事項解説の進み方に合わせて、練習問題にも取り組んでもらう。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	長柄行光著『サンスクリット文法』(2002)。私家版なので、受講生にはコピー代実費で購入してもらおう。
参考文献	Charles Rockwell Lanman, <i>A Sanskrit Reader: Text and Vocabulary and Notes</i> , Harvard University Press, 1884. (リプリント版が廉価で入手可能) 辻直四郎『サンスクリット文学史』岩波全書、1973
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習・復習ともに120分程度の時間をかけてほしい
履修上の注意	文法の学習において、予習はその日の授業で何を学ぶのかを予め把握しておく作業である。それゆえ長い時間をかける必要はないが、わからない点を抑えておくことが肝要。いっぽう、復習は習ったことが文法規則全体のどの部分を構成するのかをしっかりと抑え、さらに最小限暗記すべき規則を暗記する努力をしなければならないので、十分な時間をかけることが望ましい。また語学習得という授業の性質上、欠席はできる限りしないように。受講生は疑問点が残らないように、何度でも質問していただきたい。
連絡方法	初回の授業で説明する

未修者のためのチベット語

科目番号	20108
科目名・単位数	古典チベット語 4単位
時限	金曜日4時限目
担当教員氏名	齊藤 明 教授
授業題目	古典チベット語入門
授業の目的・概要	チベット語には大別して、およそ8世紀以降の文献や碑文に記された文語と、現在の中国チベット自治区およびその周辺諸省、ならびにネパール、ブータン、インド等の中国以外の地で話される口語とがある。ここにいう「古典」チベット語とは、主に8世紀から18世紀頃までの仏典を中心とする諸文献・碑文が用いるチベット文語をさす。授業では、この古典チベット語文法を講義し、受講者がチベット人の撰述文献とともに、チベット語翻訳仏典を読むための基礎力を養うことを目的とする。
到達目標	古典チベット語文法の基礎を学び、チベット撰述文献および翻訳仏典を読むための、的確な読解力を得ることを目標とする。
授業計画	夏学期 1-2 導入と序論 古典チベット語とは何か。チベット語の文字と文法。 仏典チベット語訳の特性、辞書と文法書他。 3-15 チベット語古典文法 冬学期 1-2 単文と複文 3-15 選文講読（『法華経』『般若心経』『中論』『廻諍論』『六十頌如理論』他を部分講読）
授業の方法	講義を中心とし、部分的に資料を配布して講読を行う。参考文献ならびに関連研究は授業の中で紹介する。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価。
テキスト	Michael Hahn (tr. and rev. by U. Pagel), <i>Textbook of Classical Literary Tibetan</i> , London, 2002 をプリント配布して利用する。
参考文献	・星泉『古典チベット語文法—『王統明鏡史』(14世紀)に基づいて—』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2016. ・山口瑞鳳『概説チベット語文典』春秋社, 2002.
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には4時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。
連絡方法	初回の授業で説明する。